

災害に強く安全・安心に 暮らせるまちづくり



岡山市消防局長 長瀬 正典

岡山市は、京阪神と九州、四国と山陰を結ぶ東西・南北交通の結節点にあり、古くから海陸交通の要衝として知られており、また、地勢的な特徴から一年を通して晴れの日が多く、冬は積雪をみることはまれで、台風の影響も比較的少ないことから、東日本大震災以降、自然災害の少ない地域として注目されています。

市域北部は、近畿地方の仁徳・応神・履中天皇陵に次ぐ規模を有する造山古墳をはじめ、古墳群が点在する古代ロマン溢れる吉備文化発祥の地であり、また、「果物王国おかやま」の代名詞となった白桃・マスカットの産地となっています。南部は瀬戸内海に面し、世界第二の規模の人造湖である児島湖と干拓によって生まれた、米どころとして名高い肥沃な平野が広がっています。気候温暖、風光明媚で豊穡な土地としての側面だけでなく、本年は「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されるなど、岡山県の政治・経済・教育・文化の中心でもあります。

さて、私ども消防局は1局（5課1航空隊）5署1分署13出張所1救急ステーション、職員数714人、消防団は1団5地区17方面隊100分団4,800人の組織により、管轄面積1,059平方キロメートル（含受託地域）に住む71万人の住民の「住みやすさ」「力強さ」「安全安心」を目指し、災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくりに取り組んでおります。

平成21年4月の政令市移行後、体制強化のため2署・1分署・1出張所を移転・新設し、同時に既存の1署3出張所を廃止するとともに、特別高度救助隊の創設、消防救急無線のデジタル化と指令システムの更新などの事業を完了しました。

現在、2署の移転新築、水難救助隊の創設、消防ヘリコプター及びヘリコプターテレビ電送システムの更新、救急ワークステーションの新設に向けての事業が進行中で、今後も未耐震の出張所の建て替え等を実施し、さらなる体制の充実を目指す予定です。

こうした中、本年は中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練が岡山市を主会場として開催されます。関係機関との連携強化及び相互の部隊特性の理解促進を図ることはもちろんのこと、市民とも連携した消防防災体制の構築を進めてまいりたいと考えております。

今や「災害はいつでも、どこでも起こりうる。」とも言われ、東日本大震災を契機に住民の防災意識の高まりとともに、消防へよせる期待も大きくなっています。未曾有の大災害の発生が懸念される今、ESDのもと持続可能な防災への取り組みを続け、今後も住民の皆さんとともに「自助・共助・公助」をバランスよく共有した、「災害に強いまちづくり」「安全で安心して暮らせるまちづくり」に向け精進する所存です。